

中央自動車道 座光寺スマートインターチェンジ 準備会 議事次第（第1回）

日時：平成27年9月8日（火）13：30～

場所：飯田市役所 第二委員会室（本庁A棟2F）

1. 開会

2. あいさつ

- ・飯田市長
- ・飯田国道事務所長

3. 議事

- （1）準備会の設立について（資料1・2）
- （2）座光寺スマートIC計画地の周辺概要について（資料3）
- （3）各機関からの検討状況報告（資料4・5・6）
 - ・飯田市
 - ・長野県
 - ・飯田国道事務所
- （4）意見発表（飯田商工会議所会頭）
- （5）今後のスケジュールについて（資料6）

4. 閉会

中央自動車道 座光寺スマートＩＣ 準備会 第１回出席者名簿

所属	役職	氏名	備考
飯田市	市長	牧野 光朗	
国土交通省 中部地方整備局 飯田国道事務所	所長	柴山 智和	
国土交通省 中部地方整備局 道路部 地域道路課	課長	森山 幸司	
国土交通省 中部地方整備局 道路部	建設専門官	藤原 由康	
国土交通省 中部地方整備局 飯田国道事務所 調査設計課	課長	草野 真史	
長野県 建設部 道路建設課	企画幹	市岡 恵利子	
長野県 飯田建設事務所 整備課	課長	細川 容宏	
飯田市 建設部	部長	井坪 憲俊	
	参事	今井 清隆	
飯田市 リニア推進部	部長	木下 悦夫	
飯田市 建設部 地域計画課	課長	遠山 広基	
飯田市 建設部 土木課	課長	小平 亨	
飯田市 総合政策部 企画課	課長	松尾 聡	
飯田市 リニア推進部 リニア整備課	課長	米山 博樹	
中日本高速道路株式会社 名古屋支社 総務企画部 企画調整チーム	サブリーダー	足立 雅人	
中日本高速道路株式会社 名古屋支社 保全・サービス事業部 企画統括チーム	サブリーダー	足立 嘉文	
中日本高速道路株式会社 名古屋支社 関連事業部 関連事業チーム	サブリーダー	香川 直輝	
中日本高速道路株式会社 名古屋支社 飯田保全・サービスセンター	所長	藤村 宏之	
	総務企画担当課長	秋山 務	

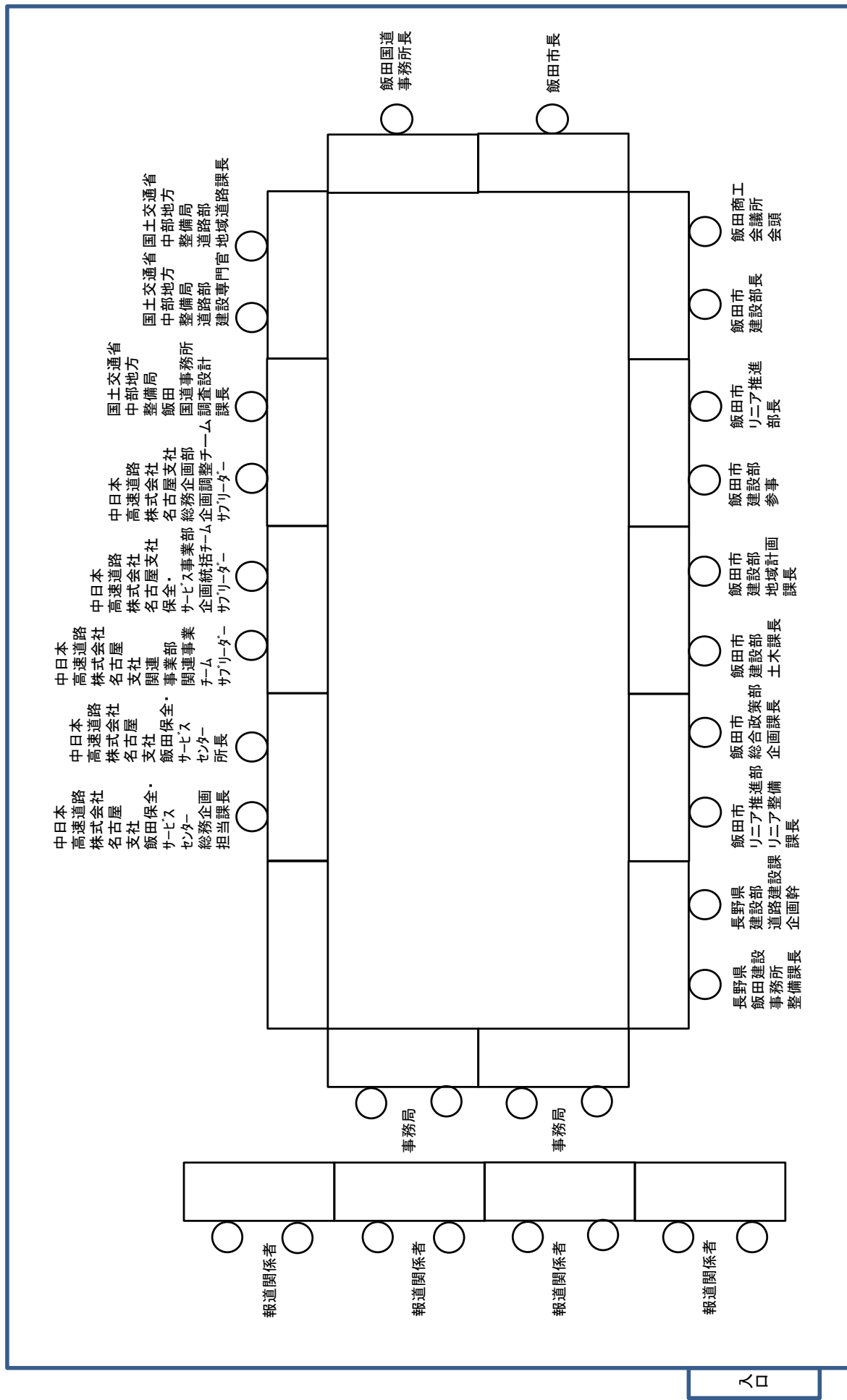
意見発表

所属	役職	氏名	備考
飯田商工会議所	会頭	柴田 忠昭	

事務局

所属	役職	氏名	備考
国土交通省 中部地方整備局 飯田国道事務所 調査設計課	係長	石橋 聡	
国土交通省 中部地方整備局 飯田国道事務所 調査設計課	主任	遠山 慎也	
飯田市 建設部 国県リニア事業課	係長	下平 泰寛	
飯田市 建設部 国県リニア事業課	指導技師	筒井 教裕	

飯田市役所 第二委員室(本庁A棟2階)



中央自動車道 座光寺スマートインターチェンジ 準備会 設立趣意書

スマートインターチェンジは、高速道路の本線やサービスエリア等から乗り降り出来る ETC 専用のインターチェンジのため、従来に比べ低コストで導入出来るメリットがあり、道路を賢く使う取り組みとして、整備が進められてきたところである。

スマートインターチェンジの整備により、高速道路の利便性向上の効果に加え、物流の効率化、医療機関へのアクセス向上、観光支援など多様な効果が明らかになってきており、中長期にわたり経済成長を支えるなどの「ストック効果」が見込まれる。

中央自動車道座光寺スマートインターチェンジ（仮称）は、平成 27 年 6 月に国として必要性が確認できる準備段階調査箇所に選定され、その整備に向け計画的かつ効率的な準備・検討を進めることを目的として、「中央自動車道座光寺スマートインターチェンジ準備会」を設立するものである。

中央自動車道 座光寺スマートインターチェンジ 準備会 規約（案）

（名称）

第1条 本会は、「中央自動車道座光寺スマートインターチェンジ準備会」（以下「準備会」と称する。

（目的）

第2条 準備会は、座光寺スマートインターチェンジの計画的かつ効率的な準備・検討の推進が図られるよう、必要な検討・調整を行うことを目的とする。

（構成）

第3条 準備会は、別紙に掲げる者により構成する。

（準備会）

第4条 準備会の会長は、飯田国道事務所調査設計課長をもって充てる。

2 会長は、準備会の会務を総括する。

3 準備会は、会長が召集する。

4 会長に事故のある場合は、あらかじめ会長が指名した者がその職務を代理する。

5 準備会では、地方での計画的かつ効率的な準備・検討の進捗が図られるよう、主に以下の事項を検討・調整する。

一 調査・検討項目の整理

二 調査・検討の実施及び調整

三 その他、準備会が必要と認める事項

6 会長が必要と認める場合は、別紙に掲げる以外の者の出席を求めることができる。

（事務局）

第5条 準備会の事務局は、飯田国道事務所調査設計課及び飯田市建設部国県リニア事業課に置く。

（その他）

第6条 この規約に定めのない事項又は疑義を生じた事項については、必要に応じて、別途協議のうえ処理するものとする。

（付則）

この規約は、平成27年9月8日から施行する。

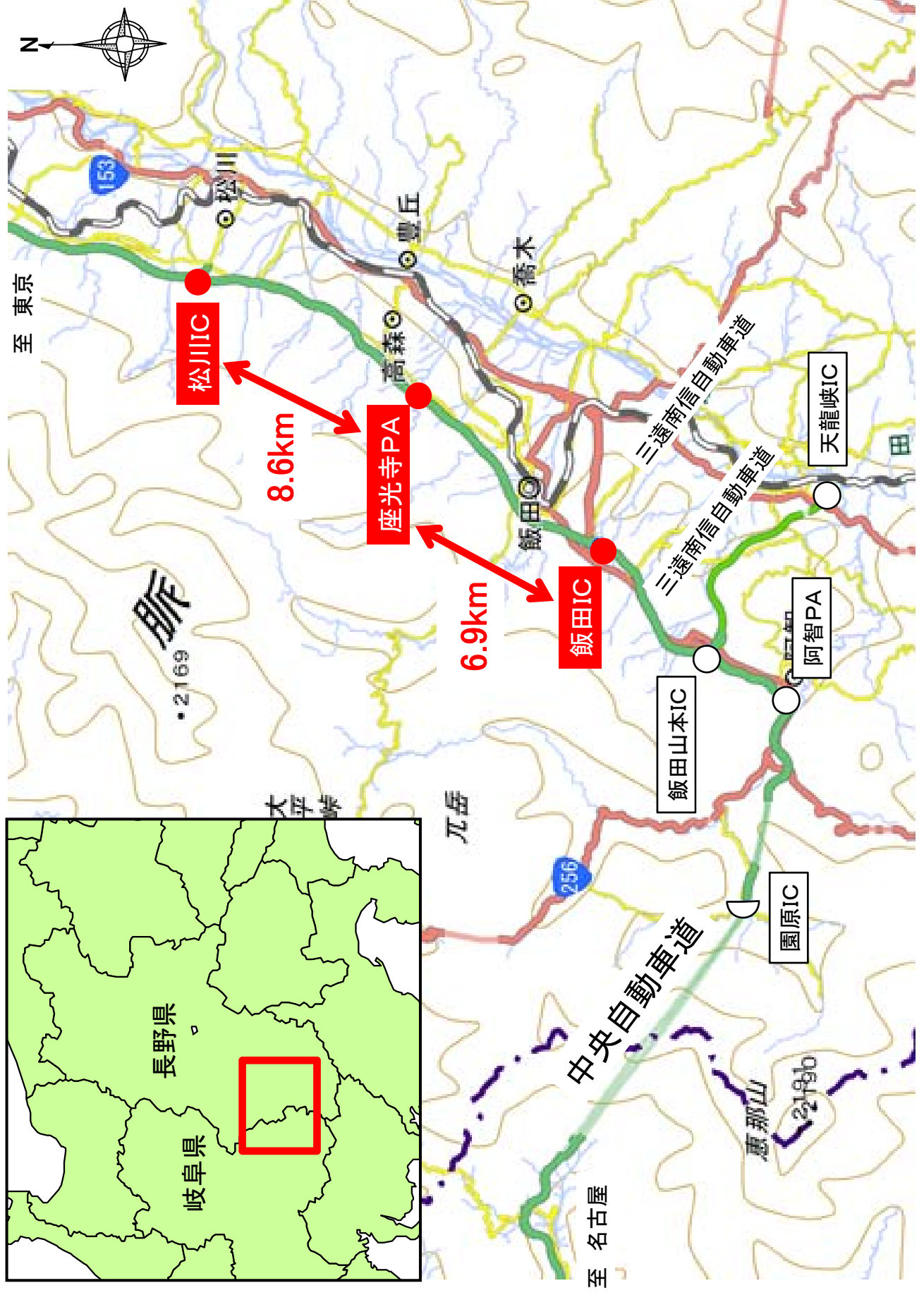
中央自動車道 座光寺スマートＩＣ 準備会
名簿（案）

所属	役職	備考
国土交通省 中部地方整備局 飯田国道事務所 調査設計課	課長	会長
長野県 建設部 道路建設課	企画幹	
長野県 飯田建設事務所 整備課	課長	
飯田市 建設部	部長	
	参事	
飯田市 リニア推進部	部長	
飯田市 建設部 地域計画課	課長	
飯田市 建設部 土木課	課長	
飯田市 総合政策部 企画課	課長	
飯田市 リニア推進部 リニア整備課	課長	
中日本高速道路株式会社 名古屋支社 総務企画部 企画調整チーム	サブリーダー	
中日本高速道路株式会社 名古屋支社 保全・サービス事業部 企画統括チーム	サブリーダー	
中日本高速道路株式会社 名古屋支社 関連事業部 関連事業チーム	サブリーダー	
中日本高速道路株式会社 名古屋支社 飯田保全・サービスセンター	副所長（土木）	
	副所長（施設）	
	総務企画担当課長	
（事務局）		
国土交通省 中部地方整備局 飯田国道事務所 調査設計課		
飯田市 建設部 国県リニア事業課		

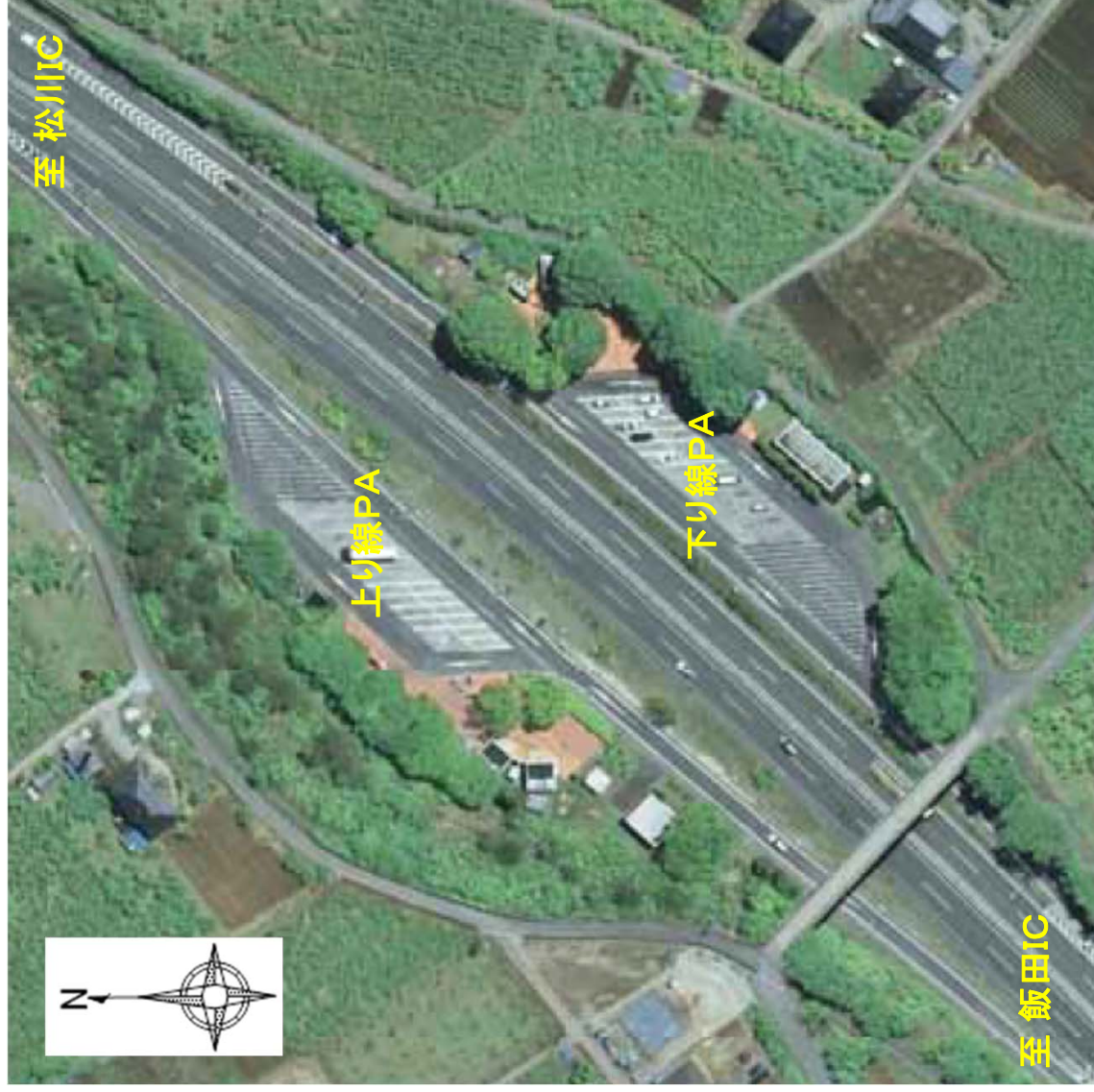
※会長が必要と認める場合は、上記以外の者の出席を求めることができる。

中央自動車道 座光寺 スマートインターチェンジの概要

座光寺スマートインターチェンジの高速道路における位置



座光寺スマートインターチェンジの計画地の状況



座光寺PA(上り線)

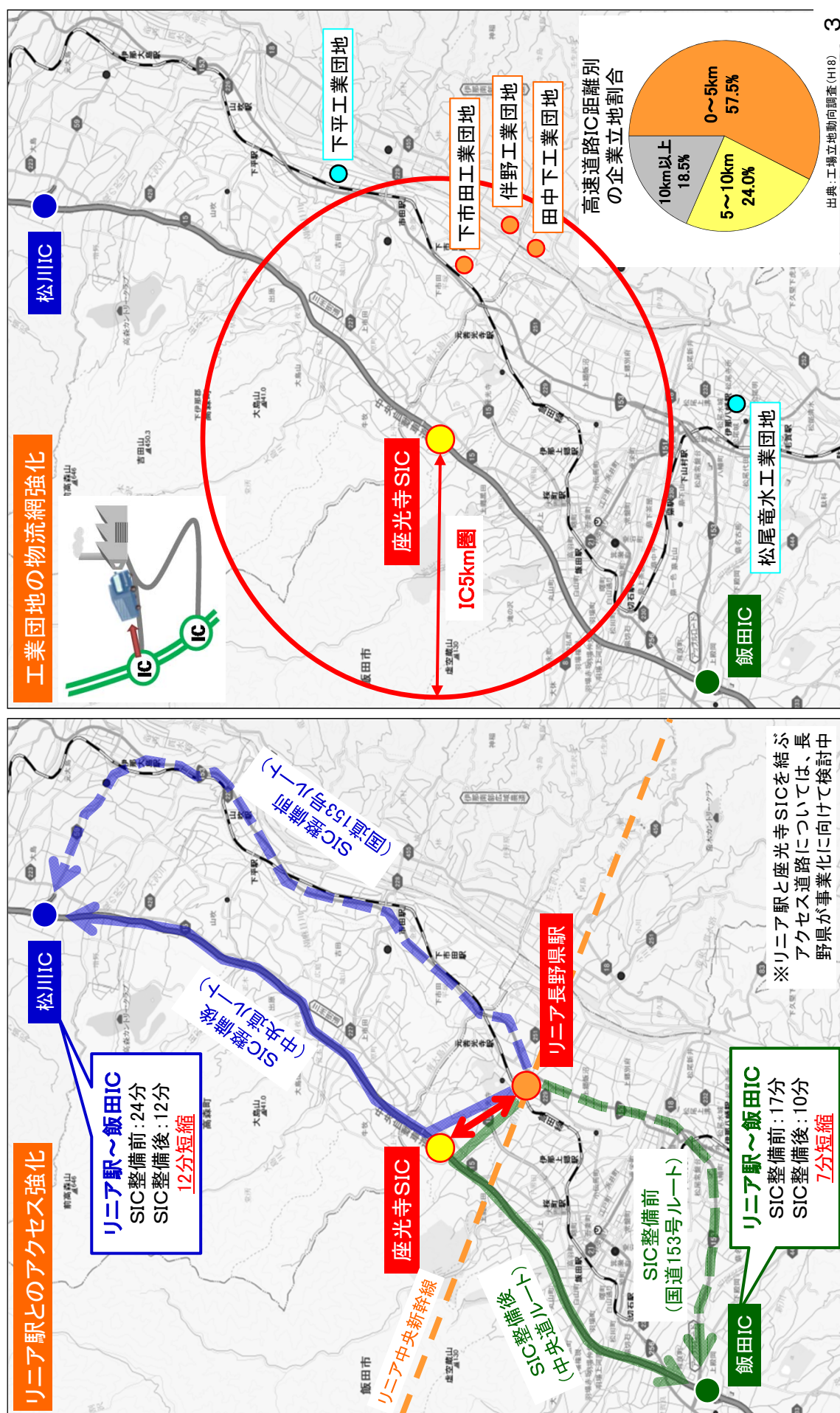


座光寺PA(下り線)

座光寺PA(全景)

座光寺スマートインターチェンジのストック効果

- リニア駅と高速道路とのアクセス向上、リニア利用者の高速道路利用の促進により、リニアの整備効果が伊那谷全体に波及。
- 既存の工業団地がIC5km圏となることで、輸送効率の向上が期待されるとともに、更なる企業立地の促進が期待。



座光寺スマートIC(仮称)検討状況

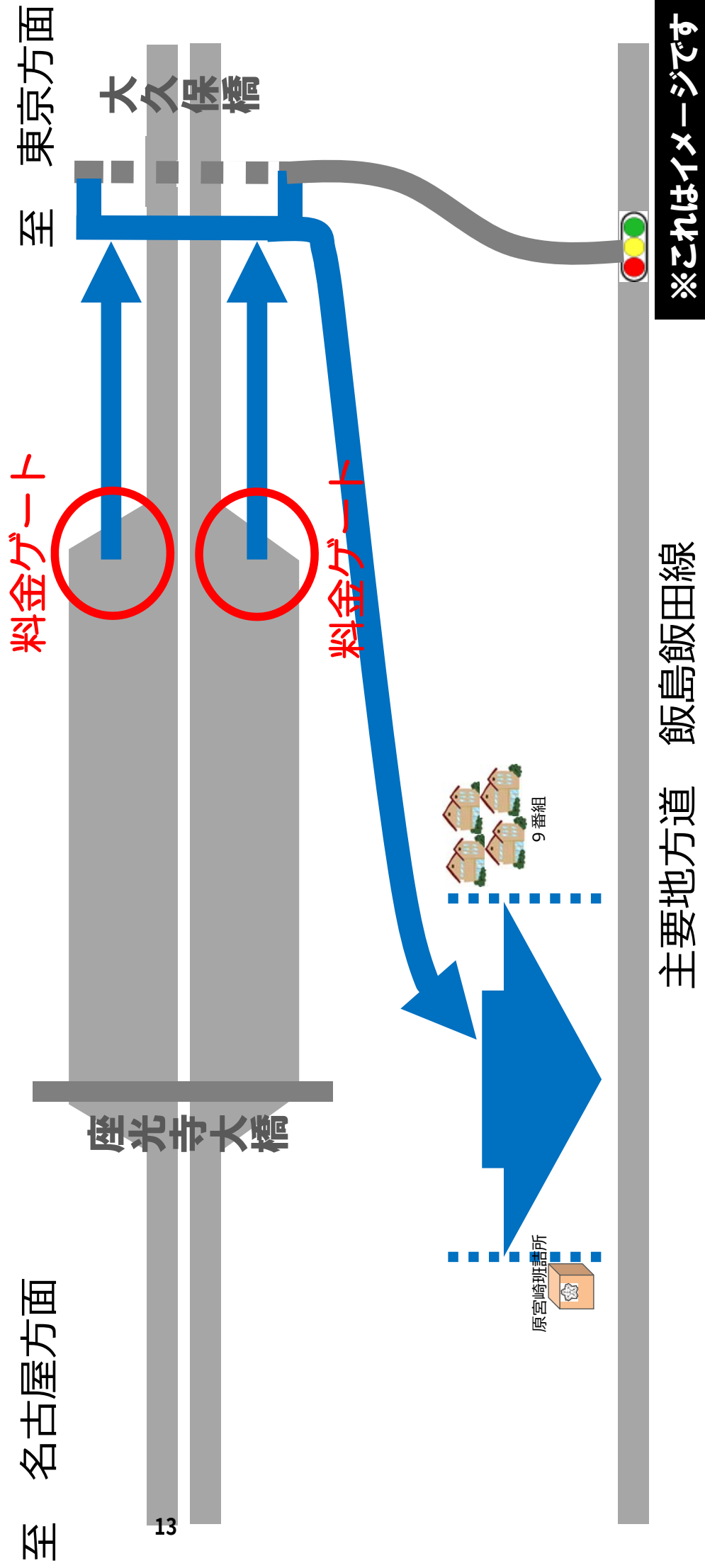
第1回座光寺スマートIC準備会
平成27年9月8日

■ スマートICの利用形態

- 対応車種 → ETC搭載車両
車長12.0m以下 } 通行可能
(例) 大型バス通行可能、トレーラー通行不可能
- 利用形式 → フルインター形式
全方向の出入が可能
※上り線〈東京方面〉、下り線〈名古屋方面〉と
もに出・入可能
- 運用時間 → 24時間利用可能

■ スマートICレイアウト案の条件

- 1) 料金所は、上下線それぞれに設置します。
- 2) 中央自動車道の横断は、新設橋梁を一般道として付け替えます。
- 3) 家屋影響を考慮し、スマートIC接続先は南側とします。



今後の検討範囲

至 名古屋方面

地形測量実施済み範囲

中央自動車道

今後の検討範囲

座光寺PA(上り)

座光寺PA(下り)

大久保橋

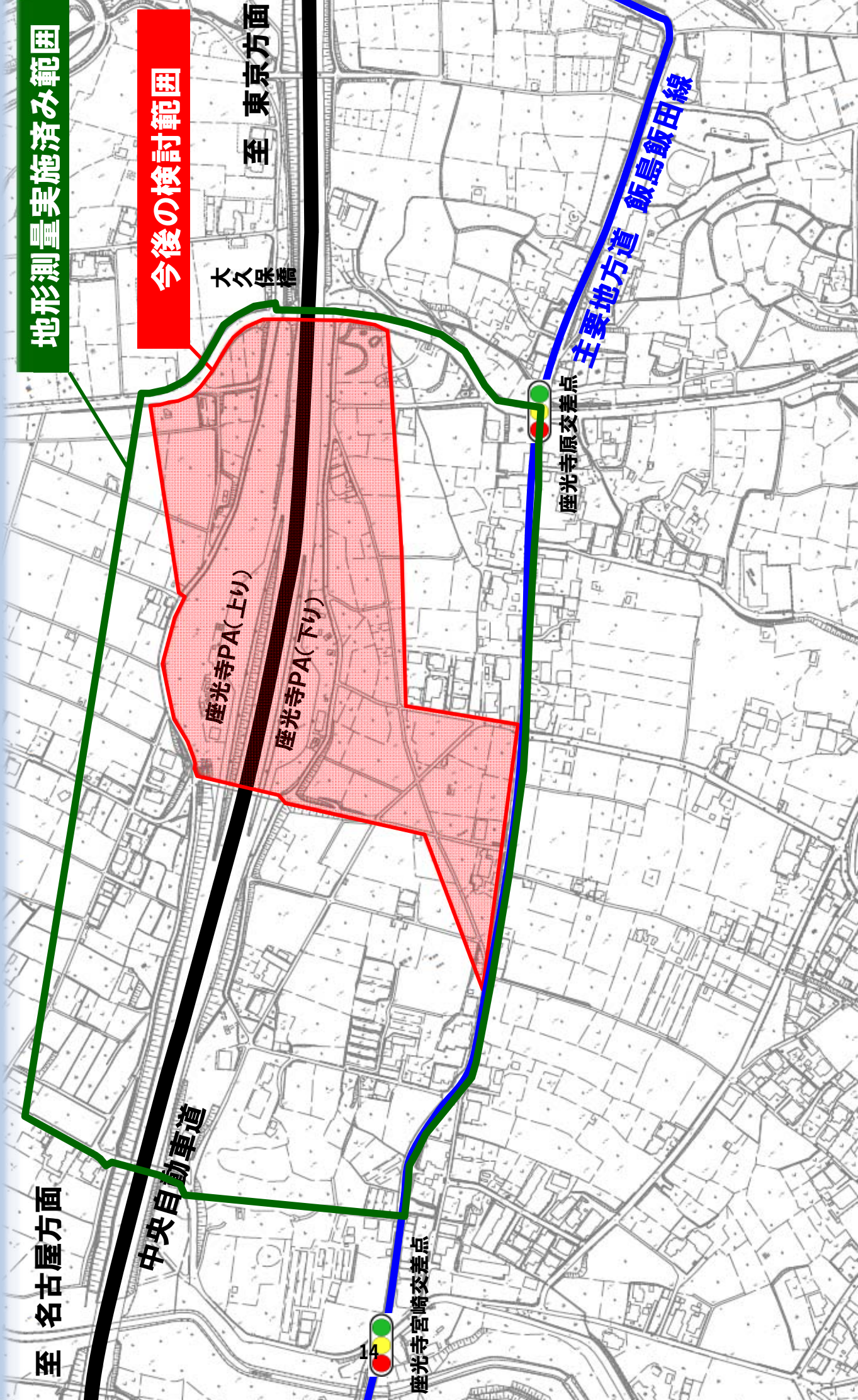
至 東京方面

14

座光寺宮崎交差点

座光寺原交差点

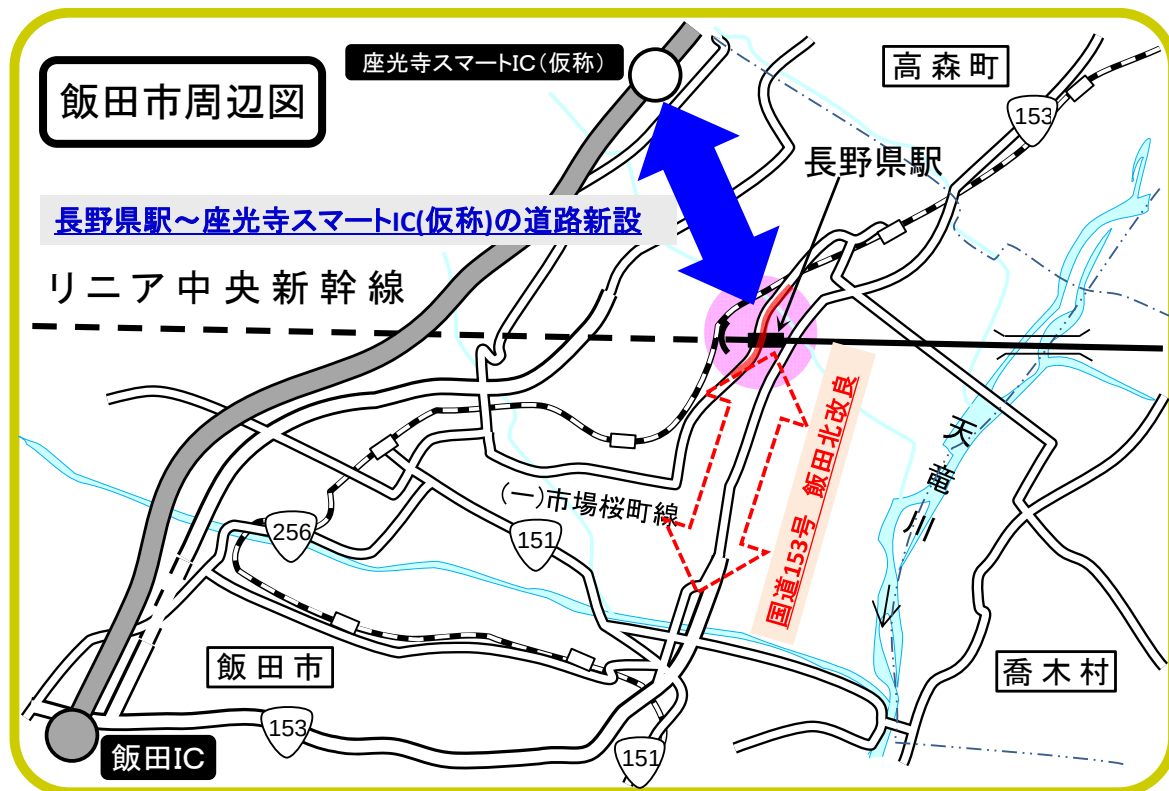
主要地方道 飯島飯田線



リニア関連道路整備

「長野県駅～座光寺スマートIC(仮称)の道路新設」

飯田建設事務所



長野県駅～座光寺スマートIC(仮称)の道路新設 説明会の開催状況

○第1回説明会の状況（※「国道153号 飯田北改良と同時開催」）

・平成26年12月9日～13日 計4回 参加者:約730人

・説明内容

ルート帯比較案と有力案(A案:土曾川案)の3案を提示し、ルート帯選定時の判断材料となる評価項目を提案した。

○第2回説明会の状況

・平成27年2月3日～4日 計2回 参加者:約350人

・説明内容

ルート帯の評価を行い、「A案:土曾川案」をルート帯として決定することを提案した。

○第3回説明会の状況

・平成27年3月20日 計2回 参加者:約240人

・説明内容

ルート帯を「A案:土曾川案」に決定し、ルートの検討範囲を示すとともに、地形測量と地質調査の立ち入りをお願いした。

○現在の状況

・測量作業に伴う土地への立ち入りについて、組合回覧、関係地権者あて郵送により通知し、測量作業を実施中。

検討した3つのルート帯案



ルート帯の決定について

評価項目		A案	B案	C案
事業特性	目的達成度	○		
	費用	○		
	効果	○		
交通機能	ネットワーク	○		
	走行性 安全性	○		
沿道環境	史跡・文化財への影響	○		
	生活環境への影響		○	
	自然環境への影響			○
評価		○		

→ ルート帯を「A案:土曾川案」に決定します。

平成27年 6月30日

国土交通省道路局

スマートインターチェンジの新規事業化・準備段階調査について

- スマートインターチェンジについては、本日付で新規事業化しましたので、お知らせします。

今回の新規事業化は4箇所であり、例えば、

- ・県庁所在地都市の中心市街地へのアクセス向上など
都市内の交通状況の改善
- ・周辺の物流拠点から高速道路へのアクセス向上など
産業振興・物流の効率化

などの効果が期待されます。

- また、スマートインターチェンジの準備段階（地方での計画検討・調整段階）において、国として必要性が確認できる箇所等について、国が調査を実施する「準備段階調査」を今年度より実施します。

今回の準備段階調査は17箇所であり、これにより、スマートインターチェンジの地方での計画的かつ効率的な準備・検討の推進が図られることが期待されます。

別添①：スマートインターチェンジ新規事業化箇所一覧表

別添②：スマートインターチェンジ新規事業化箇所図

別添③：スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果事例

別添④：スマートインターチェンジの手続きについて

別添⑤：スマートインターチェンジ準備段階調査箇所一覧表

別添⑥：スマートインターチェンジ準備段階調査箇所図

別添⑦：スマートインターチェンジの準備段階調査について

〔問い合わせ先〕

国土交通省 道路局 高速道路課 課長補佐 甲斐 一洋

〔代表〕 TEL 03-5253-8111（内線38362）

〔直通〕 TEL 03-5253-8500、FAX 03-5253-1619

スマートインターチェンジ※1新規事業化箇所一覧表

別添①

(単位:百万円)

スマートインターチェンジの名称(仮称)※2	連結位置	路線名※3	H27事業費※4	接続形式
おおや 大谷	栃木県宇都宮市	東北縦貫自動車道弘前線(鹿沼IC～宇都宮IC間)	24	本線直結型
みよし 三芳(フル化)※5	埼玉県入間郡三芳町	関越自動車道新潟線(所沢IC～川越IC間)	22	SA・PA接続型
よこすか 横須賀PA	神奈川県横須賀市	横浜横須賀道路(横須賀IC～衣笠IC間)	22	(上)SA・PA接続型 (下)本線直結型
はだの 秦野SA	神奈川県秦野市	第二東海自動車道(伊勢原北IC～秦野IC間)	22	SA・PA接続型

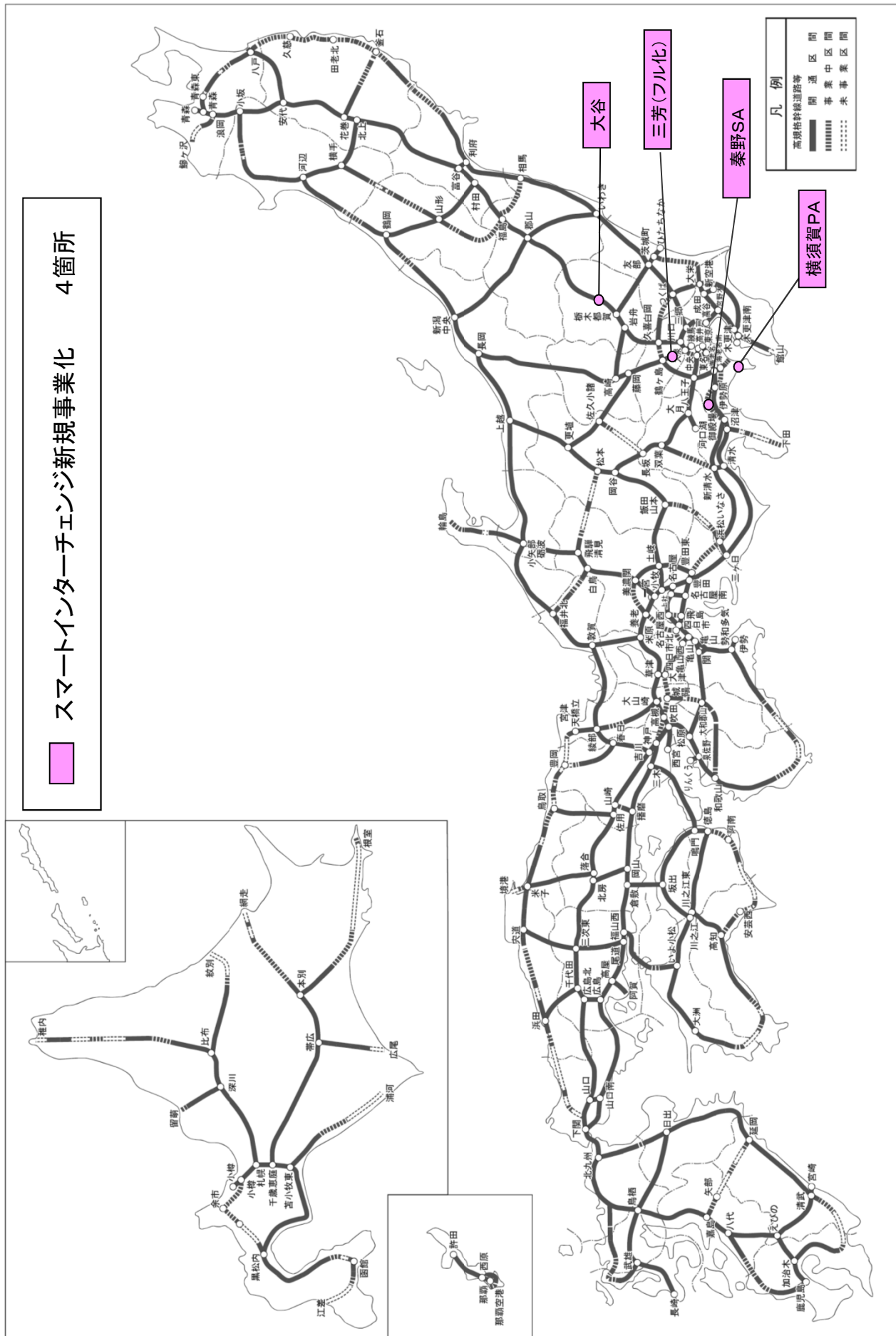
※1 スマートインターチェンジとは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、専らETCを搭載した車両が通行することを目的としたインターチェンジです。

※2 スマートインターチェンジの名称は仮称であり、正式な名称は、地元や利用者のご意見等も踏まえて決定されます。

※3 未開通のIC、SA、PAは仮称です。

※4 事業費は高速道路機構への補助対象分であり、地方が整備する高速道路の区域から既設の一般道路までの道路本体などは含みません。

※5 一方向のみ出入り可能なスマートインターチェンジ(ハーフ)を二方向で出入りできる構造(フル)にするものです。



スマートインターチェンジ新規事業化箇所の整備効果事例①

別添③

■東北自動車道 大谷スマートIC(仮称)

<概要>

路線名：東北縦貫自動車道弘前線
(鹿沼IC～宇都宮IC間)

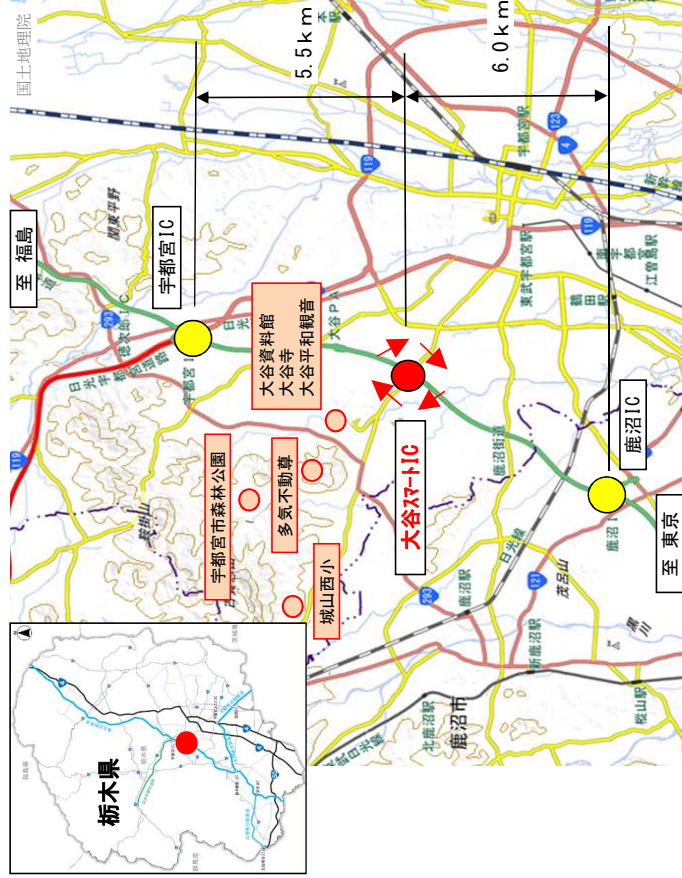
設置場所：栃木県宇都宮市

接続形式：本線直結型

利用方向：全方向 (4/4)

運用形態：全車種 24時間

21 <位置図>

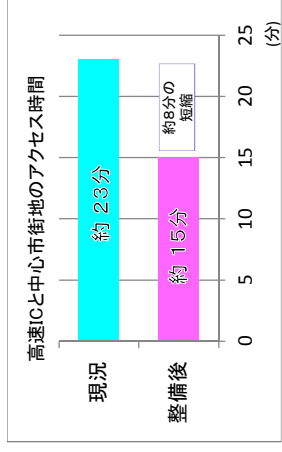
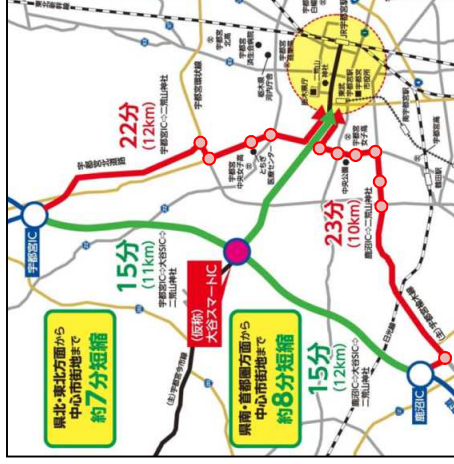


整備効果1 宇都宮市の中心市街地へのアクセス向上

- 大谷スマートICの整備により、一般道の渋滞を回避し、かつ最短距離で東北道から宇都宮市の中心市街地にアクセスが可能となる。

【効果例】東京方面から宇都宮市街地へのアクセス性向上

現況: 約23分 ⇒ 整備後: 約15分 (約8分短縮)



整備効果2 観光交流の支援

- 大谷スマートICの整備により、大谷資料館など市西部地域の観光資源へのアクセス性が向上し、観光振興につながる。



多気不動尊 H25来訪者数 53.4万人



大谷資料館 H25来訪者数 8.2万人

宇都宮市森林公園 H25来訪者数 21.7万人

スマートインターチェンジ新規事業化箇所を整備効果事例②

別添③

■関越自動車道 三芳スマートIC[フル化・車種拡大]

<概要>

路線名：関越自動車道新潟線

（所沢IC～川越IC間）

設置場所：埼玉県入間郡三芳町

接続形式：SA・PA接続型

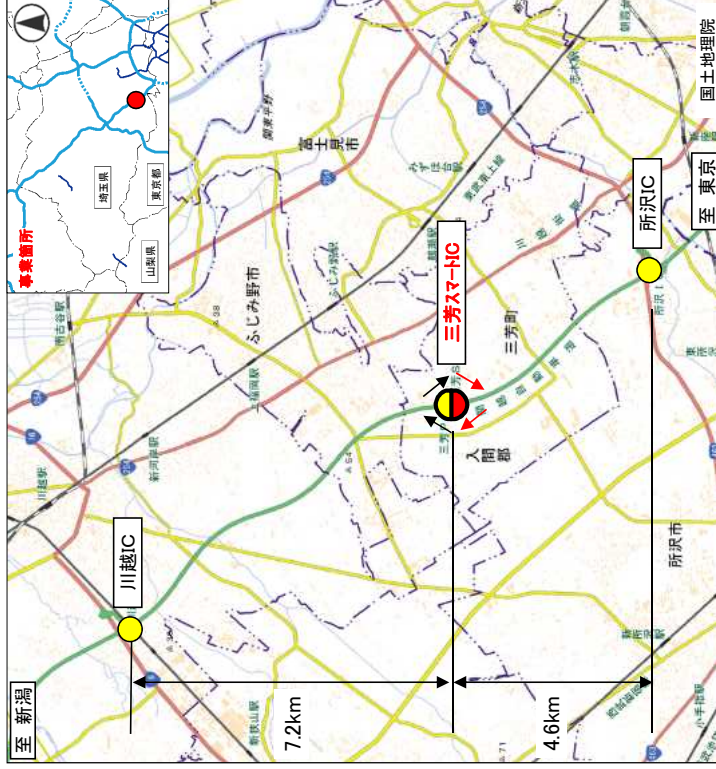
利用方向：全方向[フル化]

※現在は新潟方面出入のみ

運用形態：全車種[車種拡大] 24時間

※現在は普通車以下に制限

22<位置図>



整備効果1 物流の効率化・産業振興

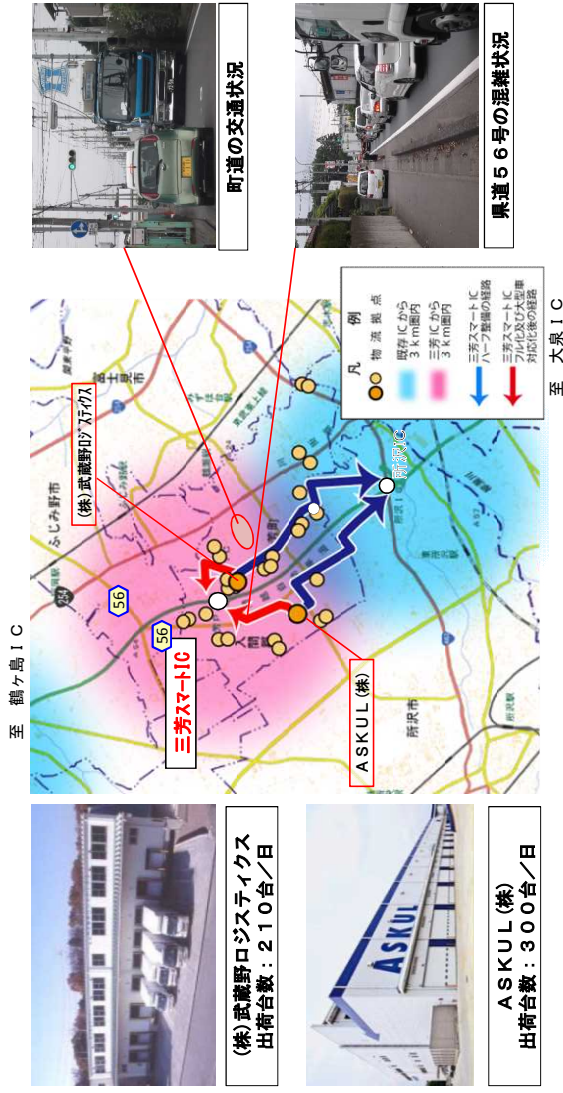
- ・現在、普通車以下かつ新潟方面の出入に制限されている三芳スマートICを大型化、フル化することにより、周辺に立地する物流拠点へのアクセスが向上することで、物流の効率化が図られ、周辺地域の産業振興につながる。

【効果例】周辺の物流企業から最寄りICまでの所要時間(東京方面)

現況:約10分 ⇒ 整備後:約2分 (約8分短縮)

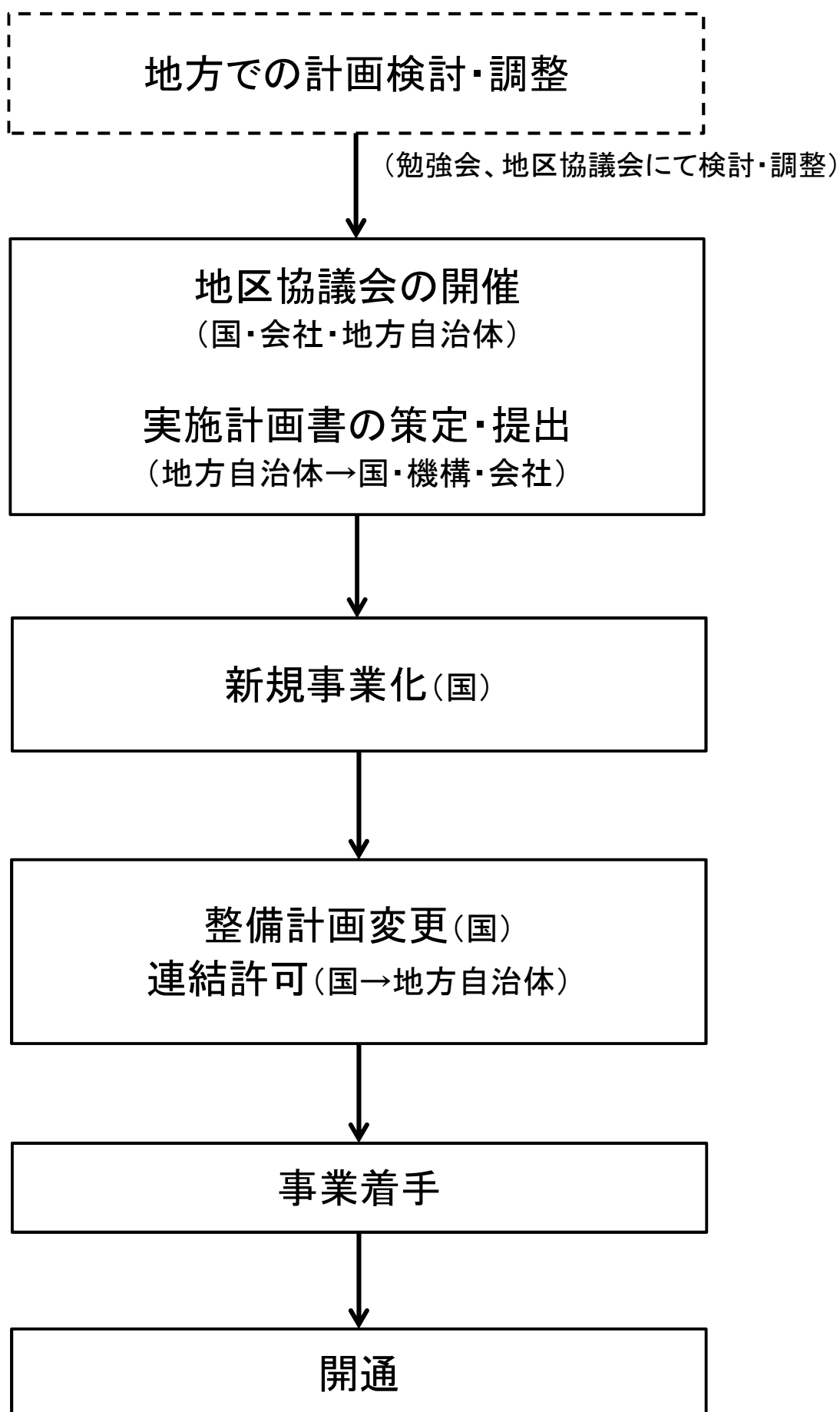
整備効果2 周辺一般道の環境改善

- ・周辺一般道への大型車の流入が抑制され、周辺道路の渋滞緩和や地域の生活道路の安全性向上につながる。



新たなIC3km圏域の主な物流企業と出荷台数(H26)

スマートインターチェンジの手続きについて

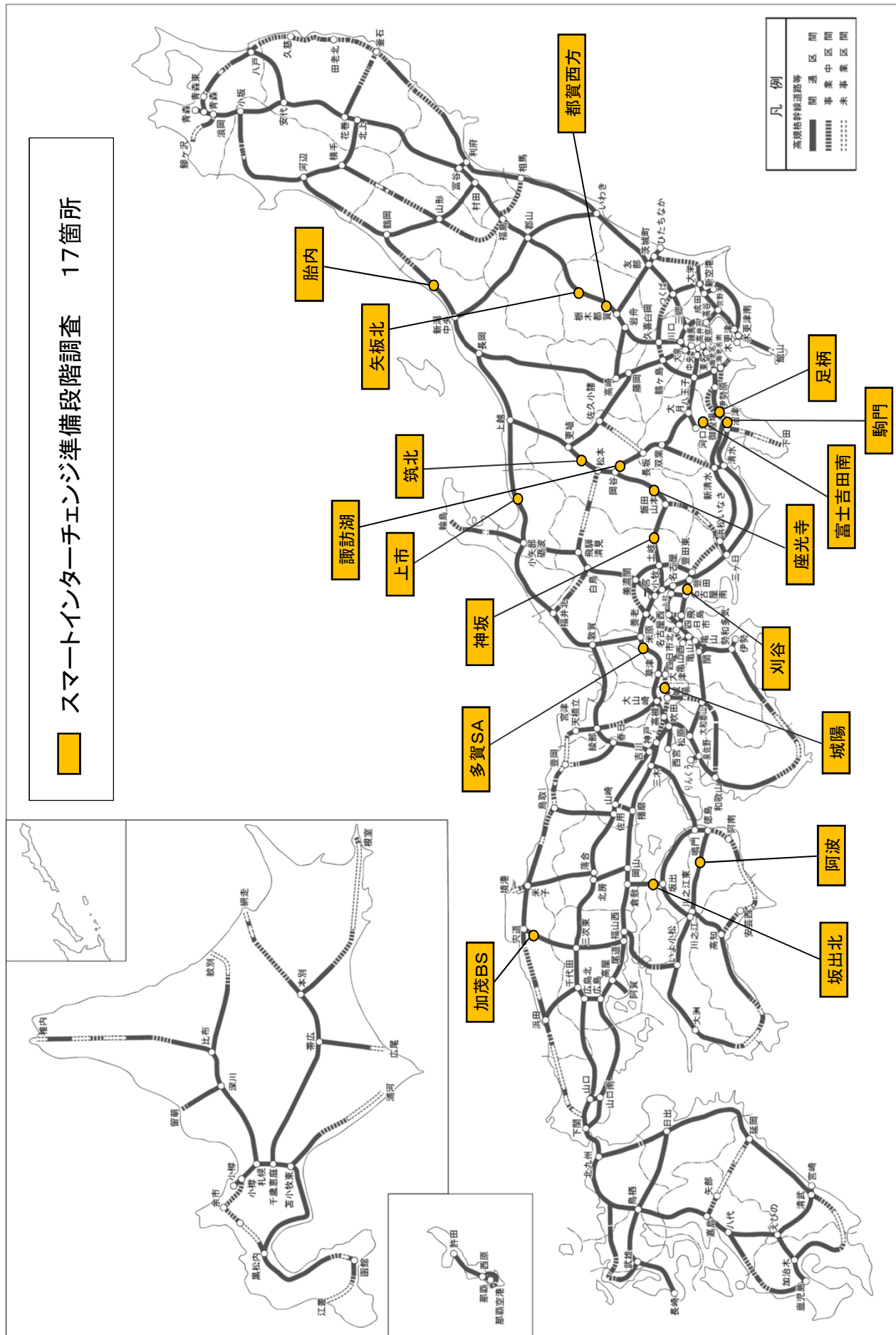


スマートインターチェンジ※1準備段階調査箇所 一覧表

別添⑤

スマートインターチェンジの名称(仮称)※2	検討位置	路線名※3
つがにしかた 都賀西方	栃木県栃木市	東北縦貫自動車道弘前線(栃木IC～鹿沼IC間)
やいたきた 矢板北	栃木県矢板市	東北縦貫自動車道弘前線(矢板IC～西那須野塩原IC間)
ないない 胎内	新潟県胎内市	日本海沿岸東北自動車道(中条IC～荒川胎内IC間)
かみいあ 上市	富山県中新川郡上市町	北陸自動車道(滑川IC～立山IC間)
ふじよしど 富士吉田南	山梨県富士吉田市	東富士五湖道路(富士吉田IC～山中湖IC間)
すあ 諏訪湖	長野県諏訪市、岡谷市	中央自動車道西宮線(諏訪IC～岡谷IC間)
ぞうど 座光寺	長野県飯田市	中央自動車道西宮線(松川IC～飯田IC間)
あしほく 筑北	長野県東筑摩郡筑北村	中央自動車道長野線(安曇野IC～麻績IC間)
みさか 神坂	岐阜県中津川市	中央自動車道西宮線(園原IC～中津川IC間)
にまかど 駒門	静岡県御殿場市	第一東海自動車道(御殿場IC～裾野IC間)
あしがら 足柄	静岡県駿東郡小山町	第一東海自動車道(大井松田IC～御殿場IC間)
かりや 刈谷	愛知県刈谷市	第二東海自動車道(豊田南IC～豊明IC間)
たが 多賀SA	滋賀県犬上郡多賀町	中央自動車道西宮線(彦根IC～八日市IC間)
じょうよう 城陽	京都府城陽市	近畿自動車道名古屋神戸線(宇治田原IC～城陽IC間)
かち 加茂BS	島根県雲南市	中国横断自動車道尾道松江線(三刀屋木次IC～宍道IC間)
あわ 阿波	徳島県阿波市	四国縦貫自動車道(土成IC～脇町IC間)
きかいできき 坂出北※4	香川県坂出市	瀬戸中央自動車道(児島IC～坂出IC間)

- ※1 スマートインターチェンジとは、高速道路の本線やサービスエリア、パーキングエリアから乗り降りができるように設置されるインターチェンジであり、専らETCを搭載した車両が通行することを目的としたインターチェンジです。
- ※2 スマートインターチェンジの名称は仮称であり、正式な名称は、地元や利用者のご意見等も踏まえて決定されます。
- ※3 未開通のIC、SA、PAは仮称です。
- ※4 一方方向のみ出入り可能なインターチェンジ(ハーフ)を二方向で出入りできる構造(フル)にするものです。



スマートインターチェンジの準備段階調査について

別添⑦

- スマートICの準備段階（地方での計画検討・調整段階）において、国として必要性が確認できる箇所等について、箇所を選定し、国が調査（直轄調査）を実施。
- 選定された箇所では、関係機関で構成される「準備会」を新たに設置しつつ、調査・検討の一部を国が担うことで、地方での計画的かつ効率的なスマートICの準備・検討を推進。

